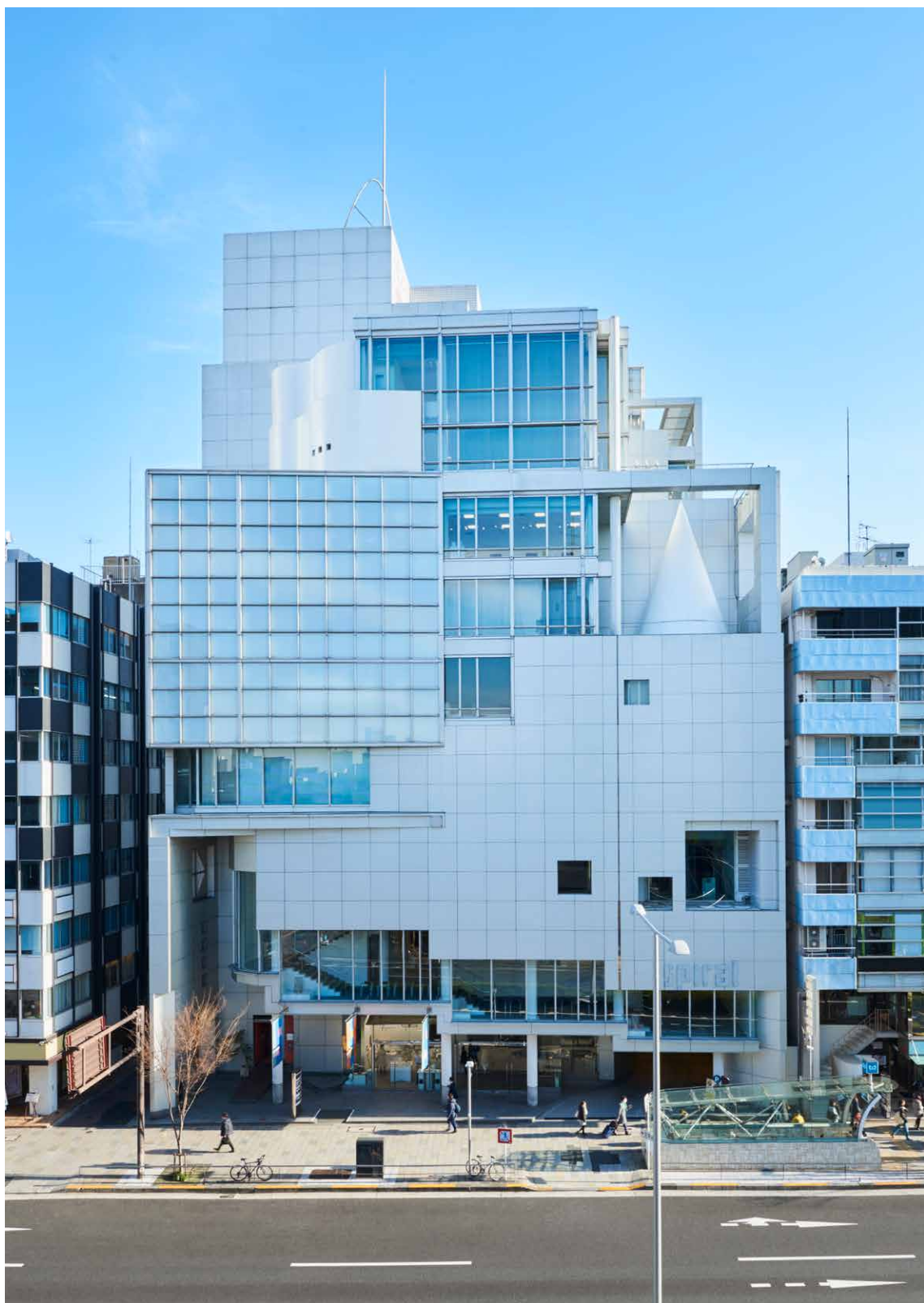


SPIRAL ANNUAL REPORT 2017



SPIRAL
ANNUAL REPORT
2017

CONTENTS

- 2: ルー・ヤン展 電脳神教
- 4: Rhizomatiks 10
- 6: spiral take art collection 2017 蒐集衆商
- 8: スペクトラムファイル
- 10: Ascending Art Annual Vol.1 すがたかたち -「らしさ」とわたしの想像力-
- 12: SICF18 第18回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル
- 14: SICF18グランプリアーティスト展 東城信之介 Cover up the ここ
- 15: 食の鼓動 -inner eatrip
- 16: 津村耕佑展 RECOMBINATION
- 17: 池田晶紀展 SUN
- 18: 石塚元太良展 panorama
- 19: one fine day ～素敵な下着からはじまる私の一日～
- 20: 窓学10周年記念 窓学展 -窓から見える世界- 窓学国際会議 -窓は文明であり、文化である-
- 21: NSK VISION 2026 Project SENSE OF MOTION -Future Forum 2 あたらしい動きと、あたらしい現実
- 22: 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー
- 23: ヨコハマ・パタリエンナーレ2017
- 24: スマートイルミネーション横浜2017
- 26: ジョイン・ザ・ドッツ
- 27: IMABARI Color Show
- 28: MINA-TO Art Wall
- 29: MINA-TO オリジナルプロダクト
- 30: 「+S」Spiral Market NAGOYA オープン
- 31: SPIRAL RECORDS
- 32: ゆるふわカエルのスパイラル探検



ルー・ヤン展 電磁脳神教

中国・上海を拠点に活動するニューメディアアーティスト、ルー・ヤンの日本初大規模個展「電磁脳神教 - Electromagnetic Brainology」を開催。ルー・ヤンは、科学と精神世界のつながりを主題に、映像、インスタレーション、アニメーション、ゲーム、3DCGなどのデジタルメディアで表現するミレニアル世代を象徴するアーティストであり、ときにその過激な表現が主にインターネット上で話題となるが、作品は一貫して、生命の儚さやもろさ、現代社会にはびこる様々な歪みを感覚的に解消しようとする思いにあふれています。

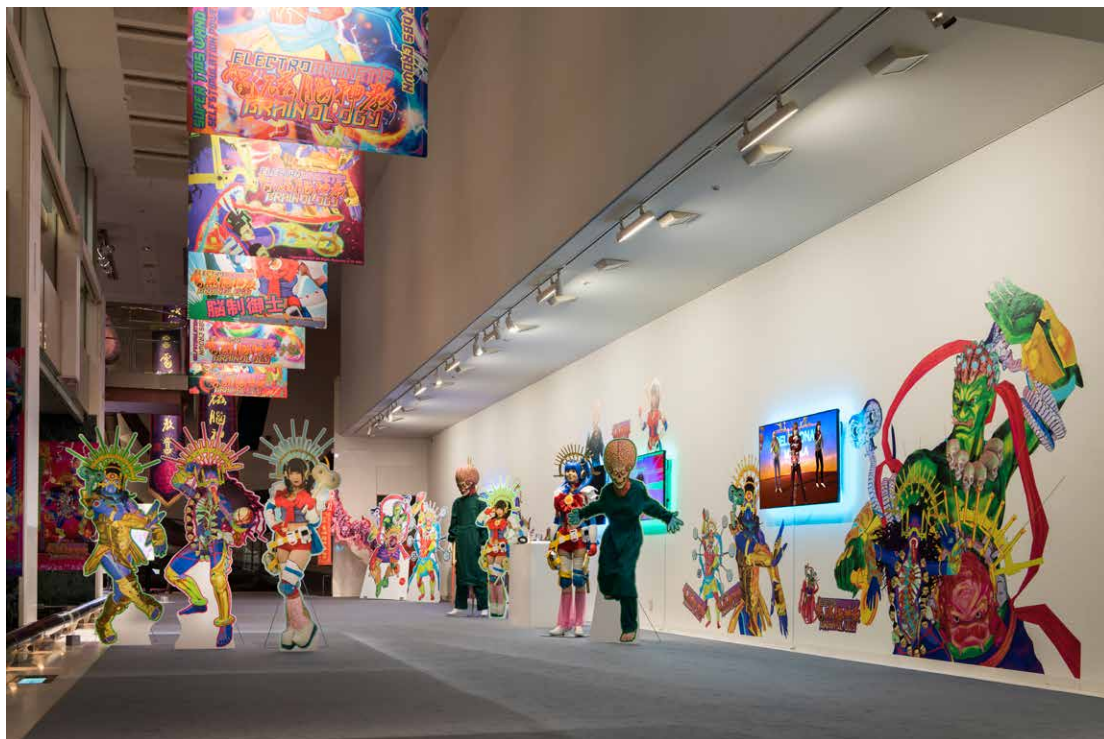
本展では、アイドル活動をするちゃんもも◎（バンドじゃないもん!）を起用し、日本のクリエイティブチームを率いて、日本のサブカルチャーからの影響を色濃く映し出した新作映像作品とともに、過去の日本未発表作品を合わせ全7点を展示しました。

Lu Yang Exhibition – Electromagnetic Brainology

"Electromagnetic Brainology," the first large-scale solo exhibition in Japan by leading Chinese new media artist Lu Yang, was held at Spiral Garden from January 5th to January 22nd, 2018.

Exploring the link between science and the spiritual world, the Shanghai-based artist Lu Yang is a key figure in the millennial generation of artists who employ such digital media as video, installation, animation, video games, and 3D computer graphics. While her at times radical visual style has attracted much attention online, running throughout all her work is a focus on the transience and fragility of life, and her attempts to sensuously eliminate the various distortions rampant in contemporary society.

The exhibition featured a total of seven works, including a new video work made with the Japanese idol Chanmomo◎ from the group Band Ja Naimon!, and which exemplified the strong influence of Japanese subcultures on Lu Yang's practice, alongside examples of her previous output not shown in Japan before.



copyright©2017 All Rights Reserved by LU YANG

会期：2018年1月5日(金)～22日(月)

会場：スパイラルガーデン

主催：株式会社ワコールアートセンター

企画制作：スパイラル

協力：株式会社インターナショナルクリエイティブ、株式会社協進印刷、株式会社中川ケミカル、川上大二郎、Suga Art Studio、HIGURE 17-15 cas 株式会社



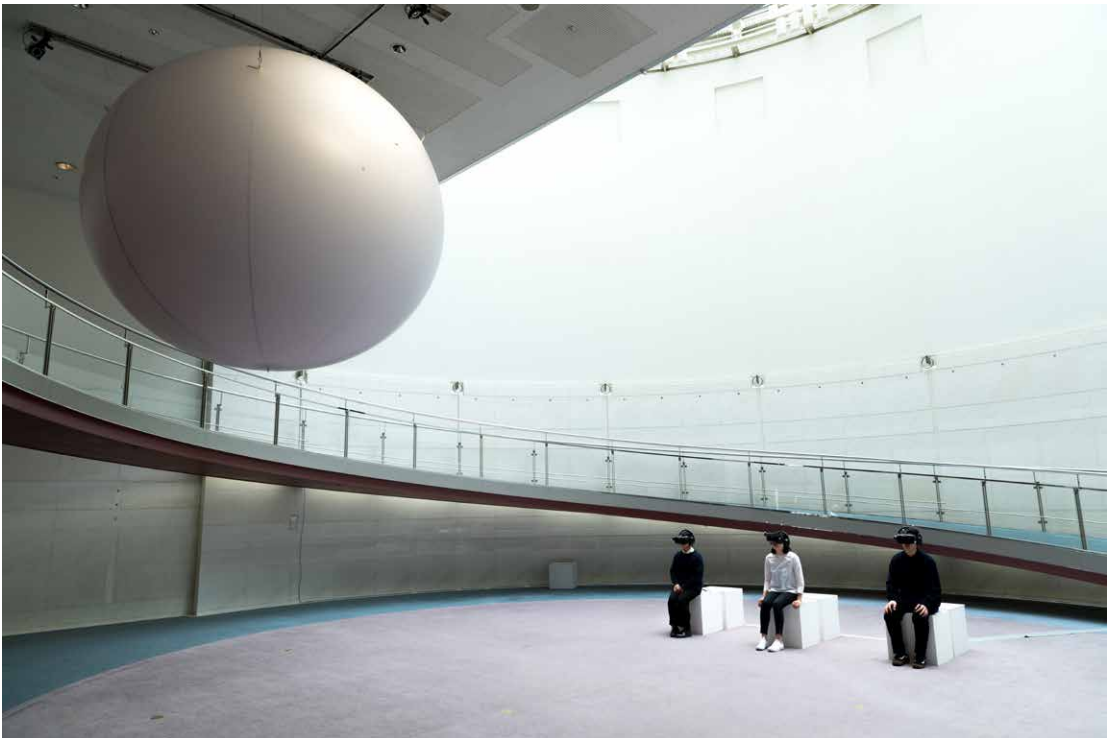
Rhizomatiks 10

世界に先駆けたテクノロジーを駆使した表現で、メディアアート、広告、エンターテインメント、建築、デザインなどの領域を横断しながら常に新たなクリエイションを開拓してきたRhizomatiks（ライゾマティクス）の創立10周年を記念した展覧会「Rhizomatiks 10」を開催しました。

本展ではライゾマティクスの多様性に満ちた活動のアーカイブを紹介したほか、ヘッドマウントディスプレイを着用して体験するVR作品「border installation ver.」を展示しました。

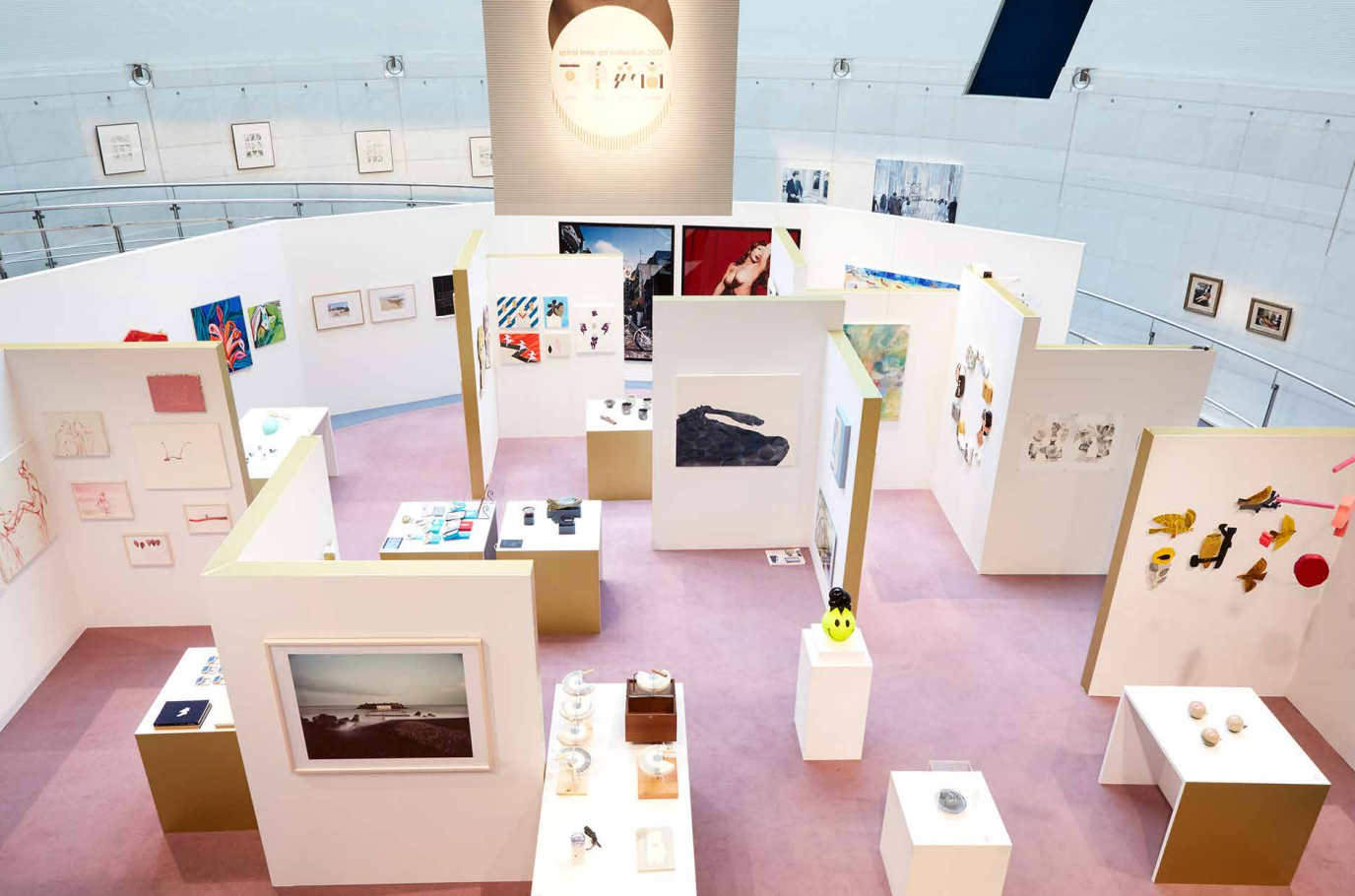
Rhizomatiks 10

This exhibition is the first mid-career retrospective by Rhizomatiks which has consistently been exploring diverse cutting edge styles of expression with skilled engineers and highly original content varying from media arts and maker's R&D support to entertainment and advertisements. "Rhizomatiks" named after "Rhizome", the concept of continuously multiplying horizontally, has gained worldwide publicity as a collective uniquely capable of dealing with everything from software to hardware and is highly demanded today. In 2016 in celebration of 10th anniversary, three departments were established: "Research" pursuing a new experimental expression based on R&D, "Design" focusing on problem solving, and "Architecture" re-examining the role of spaces. This exhibition looked back at our last 10 years of accomplishments and predict what will occur in the next 10 years.



会期：2017年4月19日(水)～30日(日)
会場：スパイラルガーデン
共催：株式会社ライゾマティクス、株式会社ワコールアートセンター
企画制作：株式会社ライゾマティクス
企画協力：スパイラル

Photo: Muryo Homma (Rhizomatiks Research)



spiral take art collection 2017 蒐集衆商

アートを日常生活に取り入れることを目指し、1988年から2005年まで、美術作品を気軽に買えるアートフェアとして展開してきた「spiral take art collection」を12年ぶりにリニューアルして開催しました。『蒐集衆商(しゅうしゅうしゅうしょう)』と題し、「蒐集する喜び」「コレクションの魅力」に焦点を当て、クリエイティブ業界屈指の“目利き”や、現代アートシーンを牽引するギャラリーがセレクトした、質の高い美術作品や骨董、本、工芸など多岐にわたる「美しいもの」を展示・販売しました。

タイトルには、蒐集を愉しむ衆(=目利き・コレクター)による商いであり、ショーであるという意味が込められています。ジャンルを超えた、美しい混沌から自分だけの宝物を見つけ出し、手に入れる楽しみを体感できるアートフェアとなりました。

spiral take art collection 2017 SHU SHU SHU SHOW

After pioneering an accessible style of art fair from 1988 to 2005, presenting unique opportunities for anyone to buy and collect art as part of their daily lives, spiral take art collection makes its long-awaited return to Tokyo for the first time in 12 years. The fair re-launches in 2017 as “Shu Shu Shu Show”, sharing the joy and appeal of collecting art through a sophisticated selection of galleries that offer everything from the very best contemporary art to antiques, books, crafts, and more. Whether you want to browse the exhibits or hunt for the next artwork to add to your collection, whether you're a first-time buyer or an experienced connoisseur, “spiral take art collection 2017 Shu Shu Shu Show” has a world of wonders waiting to be discovered.



セレクトター

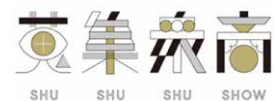
ブライアン・フィー (VOLTAアートフェア コミュニケーション・マネージャー、ギャラリーリエゾン)
 エレーヌ・ケルマシュター (キュレーター、アンスティチュ・フランセアルゼンチン
 文化プログラム主任)
 ユッカ・サヴォライネン (ヘルシンキ デザイン・ミュージアム 館長)
 木田隆子 (エル・デコブランドディレクター)
 小林マナ (空間デザイナー)
 塩見有子 (NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] ディレクター)
 菅野康晴 (『工芸青花』編集長)
 住吉智恵 (アートプロデューサー、ライター)
 遠山正道 (株式会社スマイルズ 代表取締役社長)
 中村好文 (建築家)
 皆川明 (minä perhonen デザイナー)



出展ギャラリー

赤々舎、hpgrp GALLERY、ex-chamber museum、エディション・ワークス、MA2Gallery、
 Gallery KIDO Press、GALLERY 小暮、GALLERY 360°、gallery MARUHI、GEN-SCH-AN
 [Röntgenwerke AG + IKEUCHI FINE ARTS CO., LTD]、SUICHIKUDO-gallery、
 Satellites ART LAB.、t.gallery、鳩ノ森美術、ボヘミアンズ・ギルド、MORITAKA、ロイド
 ワークスギャラリー(*五十音順)

spiral take art collection 2017



会期：前期2017年12月15日(金)～18日(月)、後期2017年12月20日(水)～25日(月)
 会場：スパイラルガーデン
 主催：株式会社ワコールアートセンター
 企画制作：スパイラル
 会場構成：小林恭+マナ(設計事務所 ima)
 グラフィックデザイン：田部井美奈



スペクトラムファイル

「スペクトラム」とは、英語で“連続体”や“領域”、プリズムを介して生じる色彩の配列を意味します。2015年から始まった展覧会シリーズ「スペクトラムファイル」は、多様なゲストキュレーターを招き、社会に気づきをもたらす表現の可能性について対話を深めながら、表現の境界領域に潜む未知の才能を拾い上げ、広く紹介していきます。2017年は「エラー：失敗の行為によって新たな価値観が生まれる」をテーマに、手刺繍・ミシン刺繍によるオリジナルテクニックで作品制作を行なう現代刺繍作家の宮田彩加と、プログラマーとしてモバイル・アプリケーション制作、舞台演出用システム設計などに携わりながら、近年は日常生活で用いるものを数理的な視点と共に成立させることに興味を持ち、種々の活動を行なうアーティストの浦川通を紹介しました。

Spectrum File

A spectrum is the band of colors created when light shines through a prism. To celebrate its 30th anniversary in 2015, Spiral showcased a wide range of creative talent inspired by this idea and looking ahead to new potential across conventions and borders in its current and future activities.

“Spectrum File” is a series of exhibitions inviting various guest curators to select and introduce overlooked talent, while encouraging discussion on how art can raise awareness about society.

In 2017, “Spectrum File” introduced two young artists Sayaka Miyata and Toru Urakawa.

Spectrum File 17

宮田彩加 Sayaka Miyata

会期：2017年6月19日(月)～7月2日(日)

会場：MINA-TO

推薦者：杉浦幸子 Sachiko Sugiura

ソーシャルデザイナー、

武蔵野美術大学芸術文化学科教授



推薦者の言葉

ラテン語の specere「見る」を内に秘めた Spectrum。光を分解することによって生まれる色の帯を示すその言葉は、私の脳内に一筋の光を描き出しました。光は形あるものの生と存在を可視化する一方で、それらを取り巻く空間や時間、記憶といった、形ないものの存在をも暗示する。光を感じることができない人々には、形に囚われない、自由な存在を想起させる。そして光は、私たちの認識が終わる瞬間、つまり死までも暗示すると考えます。Spectrumが生み出したそれらのイ

メージを表象するアーティストとして、宮田彩加を推薦しました。手から針に想いを伝える手刺繍からミシン刺繍へ世界を広げ、均一な針目に敢えてバグを加え作品にエラーを生み出し、イメージと現実の世界をつなぐ。そして作品の背後に、密やかに、しかし確実に潜む時間、そして死をも暗示する。私は時として彼女の作品を、目を閉じ、手で見るがあります。Spectrumにより生まれる世界と、それを超える世界を内包する彼女の作品が新たに生み出す Spectrumをご覧ください。

Spectrum File 18

浦川 通 Toru Urakawa

会期：2017年9月25日(月)～10月9日(月)

会場：MINA-TO

推薦者：森永邦彦 Kunihiko Morinaga

ANREALAGE デザイナー



推薦者の言葉

日常と非日常は“境界”で分けられるような対概念ではなく、常にあいまいな境界をもちながら“連続”している二つの世界であると思う。

非日常は、日常からかけ離れた世界ではなく、日常の中にこそ埋もれている世界であってほしい。

浦川は、数理的視点から日常と非日常の境界を揺さぶり続ける。メディアアーティストやコンピュータープログラマーという言葉をきくと、血の通った人間や、揺れ動く気持ちと密接にある“日常”から、遠く離れた世界を想像してしまうが、彼がつくりだすものはそうではない。

浦川は、あくまでも、日常の中に埋もれている“数理的思考”を拾い上げる。

そして、コンピューターを駆使した壮大な機械のインсталレーション作品における複雑な数理をつくるのではなく、誰もがつかったことのある日常的生活用品や、誰もが経験したことのある日常的な現象の中に拘る。0と1、プログラム言語、距離、情報とノイズ、遠近感、そういった数理的思考と、カードゲーム、辞書?はたまた、サンドイッチ、エプロンといった日用品を、連続した世界として接合してしまふ。それらの領域の接点には、未来的で斬新な世界ではなく、より「感覚」や「感情」というものに寄り添った原始的、かつ普遍性をもった世界が存在していることを、彼の作品から知ることができる。

浦川が発見をした新しい日常がここからはじまることを願う。



青木千絵

Ascending Art Annual Vol.1 すがたかたち -「らしさ」とわたしの想像力-

スパイラルの建築空間が持つ「螺旋状に上昇していくイメージ」を体現する、今後の活躍が期待される若手女性アーティストを中心に紹介、発信していく展覧会シリーズ「Ascending Art Annual」を2017年より開始しました。

初回のタイトルは「すがたかたち-『らしさ』と私の想像力-」。私たちは、見知らぬものに出会った時、見た目から様々な情報を判断し、全容を把握していく一方で、外見や定形の「らしさ」とにらわれて、背景にある事象や本質に思いを巡らせず、先入観に基づいて判断を下すことがあります。本展では、どこか私たちが見知った姿や形を持ちますが、それでいて、どこでも見たことの無いような動きや個性を持ち合わせた、素材も技法も異なる5名の作家の作品を紹介。京都にて巡回展も開催しました。

Ascending Art Annual Vol.1

Shapes and Figures – 'Typicality' and My Imagination

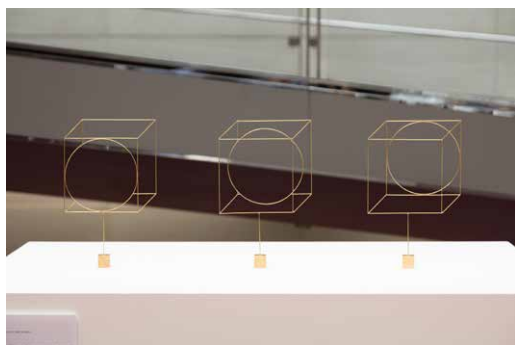
With Ascending Art Annual, Spiral begins a new series of exhibitions to introduce and promote promising young female artists who respond to the unique structure of our building, embodying the spirit of a rising spiral.

The theme for this inaugural exhibit is "Shapes and Figures".

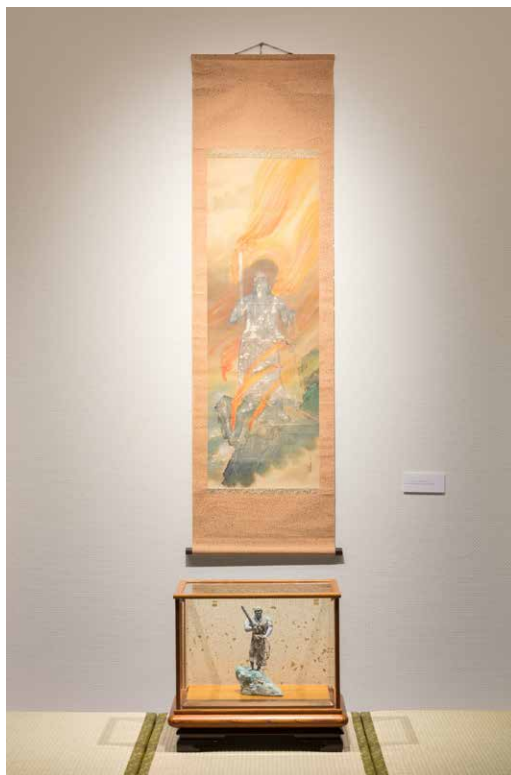
The works presented in this exhibition represent shapes and figures that we have seen somewhere before, and yet they possess unfamiliar movement or personality. The smooth, slippery and stretched-out figure of a sculpture; the unexpected movement given to common shapes like circles and squares; and photos that make us ponder the visual identity of an ethnic group – these are the "Shapes and Figures" drawn from the minds and hearts of the five artists. Free-flowing imagination encourages communication with something unknown.



金サジ



荒牧悠



入江早耶



西條茜



参加アーティスト

青木千絵
荒牧悠
入江早耶
金サジ
西條茜
(*五十音順)

東京展

会期：2017年9月12日(火)～24日(日)
会場：スパイラルガーデン
主催：株式会社ワコールアートセンター
企画制作：スパイラル
協力：ワコールスタディホール京都

京都展

会期：2017年10月20日(金)～11月11日(土)
会場：ワコールスタディホール京都 ギャラリー
主催：ワコールスタディホール京都
企画協力：スパイラル/株式会社ワコールアートセンター



SICF18 第18回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル

「SICF」は若手クリエイターの発掘・育成・支援を目的としたゴールデンウィーク恒例のアートフェスティバルです。公募によって選出された気鋭の若手クリエイターが一堂に会し、絵画、立体・インスタレーション、写真、メディアアート、ファッション、工芸やそれら既存のジャンルに捕われない作品を展示、活発なプレゼンテーションを展開します。会期の最後には、来場者の投票によって決まるオーディエンス賞をはじめ、クリエイティブ業界の第一線で活躍する審査員が選ぶ各審査員賞、準グランプリ、グランプリを優秀作品に授与します。18回目を迎え、出展クリエイター数を従来の100組から150組に拡大、会期を3会期6日間に延長したほか、新たに会場を追加し、パフォーマンスプログラム「SICF18 PLAY」を実施しました。

SICF18 (18th Spiral Independent Creators Festival)

Organized by Spiral in Minami-Aoyama, Tokyo, since 2000, Spiral Independent Creators Festival "SICF" aspires to discover, cultivate and support emerging artists and designers. It showcases the wide-ranging work of creative talent selected from an open call, offering visitors unique chances to encounter exciting new art.

The festival ends with the announcement of various awards, including "Audience Award", which is given to the exhibitor who receives the most votes from visitors, as well as "Grand Prize", "Semi-Grand Prize", and judges' awards, selected by a jury of leading figures in the creative industries.

For its 18th iteration, the number of exhibitors at SICF was increased from 100 to 150. It also featured "SICF18PLAY", a newly established performance section.



関川航平

SICF18 審査員

石田尚志 (画家・映像作家、多摩美術大学准教授)
 栗栖良依 (SLOW LABEL ディレクター)
 張 熹 (藝倉美術館 チーフディレクター)
 中村 茜 (株式会社ブリコグ代表、
 パフォーミングアーツプロデューサー)
 森永邦彦 (ANREALAGE デザイナー)
 藪前知子 (東京都現代美術館 学芸員)
 大田佳栄 (スパイラル チーフキュレーター)

SICF18 受賞者

グランプリ：東城信之介 (A-15)
 準グランプリ：クラミタカユキ (C-18)
 準グランプリ・オーディエンス賞：なかやまありさ (A-11)
 石田尚志賞：長 雪恵 (A-35)
 栗栖良依賞：黒田恵枝 (B-12)
 張熹賞：角谷沙奈美 (A-31)
 中村茜賞：金親 敦 (B-29)
 森永邦彦賞：河本蓮大朗 (A-14)
 藪前知子賞：名倉達了 (A-24)
 スパイラル奨励賞：福重美幸子 (C-31)

SICF18 PLAY 審査員

栗栖良依 (SLOW LABEL ディレクター)
 中村 茜 (株式会社ブリコグ代表、
 パフォーミングアーツプロデューサー)
 小林裕幸 (スパイラル館長、シニアプロデューサー)
 大田佳栄 (スパイラル チーフキュレーター)

SICF18 PLAY 受賞者

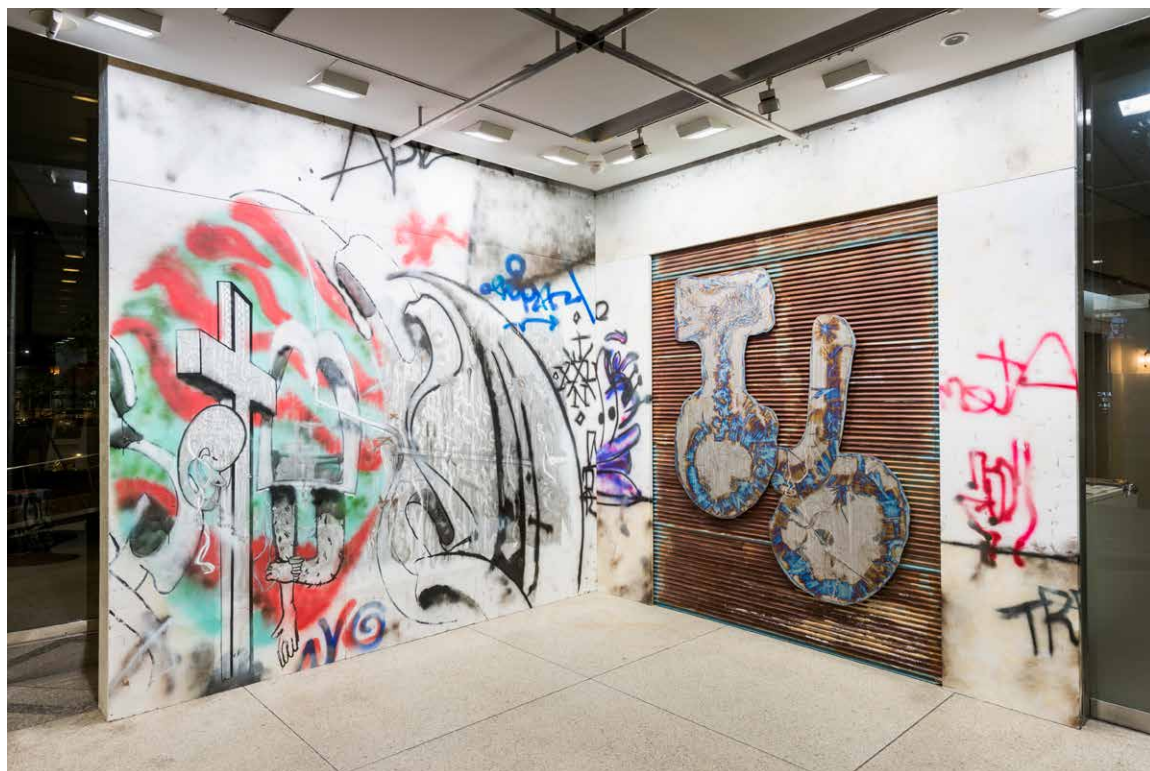
最優秀賞：関川航平
 栗栖良依賞：tantan
 中村茜賞：西尾佳織ソロ企画



会期：2017年5月2日(火)～7日(日)
 会場：スパイラルホール、スパイラルガーデン、MINA-TO
 主催：株式会社ワコールアートセンター
 企画制作：スパイラル

協力：株式会社 ORANGE SENSE、CLIP、株式会社グライダーアソシエイツ、株式会社ステージフォー、株式会社中川ケミカル
 グラフィックデザイン：日本デザインセンター 大黒デザイン研究室

SICF SPIRAL
INDEPENDENT
CREATORS
FESTIVAL **18**



SICF18グランプリアーティスト展 東城信之介 Cover up the koko

SICF18に於いて出展クリエイター150組の中からグランプリに輝いたアーティスト・東城信之介による個展を開催しました。厚さわずか0.3mmの鋼や銅など多種多様な金属板を酸化させたり、その表面に細かい傷をつけることによって、素材の奥にも手前にも不思議なイリュージョン空間が生み出された、作品の数々は、レンチキュラーやホログラムとはまた違う、未だかつて経験したことのない視覚体験へと私たちを誘います。SICF18では、自在にイリュージョン空間を生み出す精妙な技術力と、絵画と彫刻の境界を巡る美術史上の議論を想起させながらも、なお新しい道を提示したことが高く評価され、グランプリ受賞に至りました。本展は、各国のアートフェアへの出展や、中之条ビエンナーレ（群馬）の立ち上げメンバーとして活躍するなど、長くキャリアを積む一方で、東京のアートシーンにおいて登場する機会が少なかった東城の東京・青山での初の個展となりました。

SICF18 Grand Prize Artist Exhibition Shinnosuke Tojo Cover up the KOKO

This solo exhibition featured the work of the artist Shinnosuke Tojo, the winner of the Grand Prize from the 150 entrants at SICF18. Oxidizing 0.3mm sheets of steel, copper, and other metals, Tojo then makes intricate marks on their surfaces to create his artworks that conjure up a strange and illusory space extending from the very front to the depth of the materials. The results offer a visual experience that is neither like a lenticular print nor a hologram, but something entirely new. At SICF18, Tojo's work received the Grand Prize following much praise from the award judges for how it stirs up discussion about art history as well as its subtle technical skill, which freely produces an illusory space. Though Tojo has built a notable career exhibiting at international art fairs and as one of the founders of the Nakanojo Biennale in Gunma Prefecture, there had been relatively few opportunities in Tokyo to experience Tojo's work. This was his first, much-anticipated solo exhibition in Aoyama, Tokyo.

会期：2018年1月9日（火）～14日（日）

会場：ショウケース

主催：株式会社ワコールアートセンター

企画制作：スパイラル

Photo: TADA(YUKAI) ©Spiral/Wacoal Art Center



食の鼓動 – inner eatrip

食をもとめる生命の鼓動に耳をすませ、身体
の記憶を呼びさます(食べない)食の三夜連続ライブ
パフォーマンス。

フードディレクター 野村友里の企画・演出による
ライブパフォーマンス「食の鼓動-inner eatrip」
をスパイラルガーデンにて開催しました。

公演では音楽家、料理家、ダンサー、医学博士、
デザイナー、陶芸家、映像作家など幅広いジャン
ルのクリエイターや各界のプロフェッショナルの
協演により、「食」によって形づくられる身体の
「鼓動」をテーマに、臨場感あふれるパフォーマンス
を展開。また、関連企画として、野村友里ディレ
クションによる特別展示のほか、医師 稲葉俊郎
と出演アーティストによるトークセッションも開催
しました。

企画・構成：野村友里

音楽構成：青柳拓次

音楽出演：青柳拓次、ささたくや、曾我大穂、高木正勝、渡辺 亮

料理出演：勝見淳平、吉川倫平、紺野 真

ゲストパフォーマー：12月28日(木)永積 崇(ハナレグミ)

12月29日(金)UA

12月30日(土)熊谷和徳

テキスト・トークセッション：

稲葉俊郎(東京大学医学部付属病院 循環器内科 助教)

Eat Beat: inner eatrip

This was a series of live performances over three consecutive nights on the theme of food (but without actually eating), focusing on the pulse of life and memories of the body. It was planned and directed by food director Yuri Nomura and took place at Spiral Garden. The performances brought together the talents of a wide range of creative professionals, including musicians, chefs, and designers as well as a dancer, medical doctor, ceramic artist, and video artist, conjuring up a vivid event exploring the pulsations of the body that is shaped by the food we eat. As related events, there was a special exhibition with direction by Yuri Nomura as well as talks featuring the medical doctor Toshiro Inaba and artists appearing in the performances.

会期：2017年12月28日(木)～30日(土)

会場：スパイラルガーデン

共催：eatrip、株式会社ワコールアートセンター

企画：eatrip

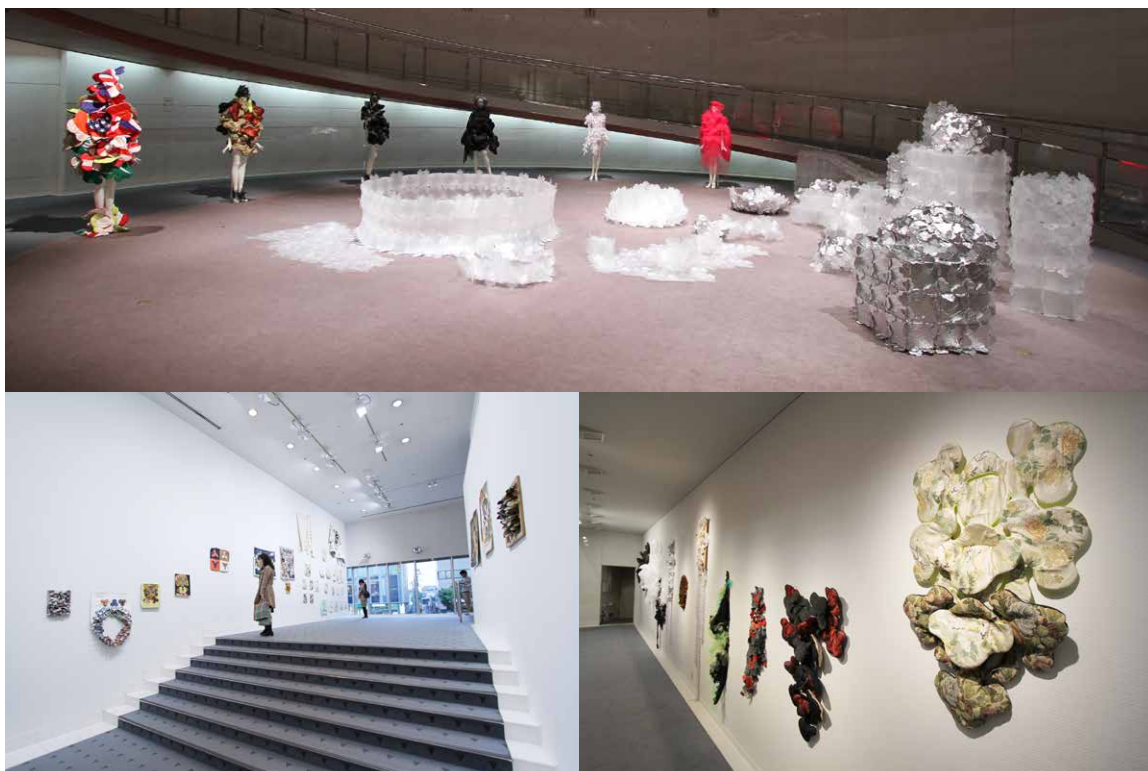
企画協力：スパイラル

後援：J-WAVE

協賛：サラヤ株式会社、JTO 株式会社、株式会社ウェルカム

企画・構成：野村友里

Photo: mito ikeda



津村耕佑展 RECOMBINATION

表生地と裏生地の間隙を利用した44のポケットを持ち、常時はもとより非常時を含むあらゆる状況に対応するナイロンコート「FINAL HOME」を発表以降も、日常の意味やファッションの機能を再考しつつける、津村耕佑による個展を開催しました。

本展では、2009年に細胞分裂から着想を得て考案した、突起とスリットを持つピースを複数組み合わせることで多様な造形を生み出す「PUZZLE WARE(パズルウェア)」を発展させた作品の数々を展示しました。

Kosuke Tsumura Exhibition RECOMBINATION

Starting with FINAL HOME, a unique nylon coat that can respond to all manner of situation, including emergencies, thanks to its 44 pockets that utilize the gaps between the front and back of the fabric, Kosuke Tsumura has continued to rethink the meaning of the everyday and the function of fashion.

This exhibition developed PUZZLE WARE, Tsumura's versatile, cell-division-inspired creation from 2009 that combines multiple pieces of fabric with slits and protrusions, into a series of artworks.

会期：2017年5月10日(水)～5月21日(日)

会場：スパイラルガーデン

主催：PUZZLE WARE project

協力：川上産業株式会社／ブチブチ文化研究所

武蔵野美術大学空間演出デザイン学科

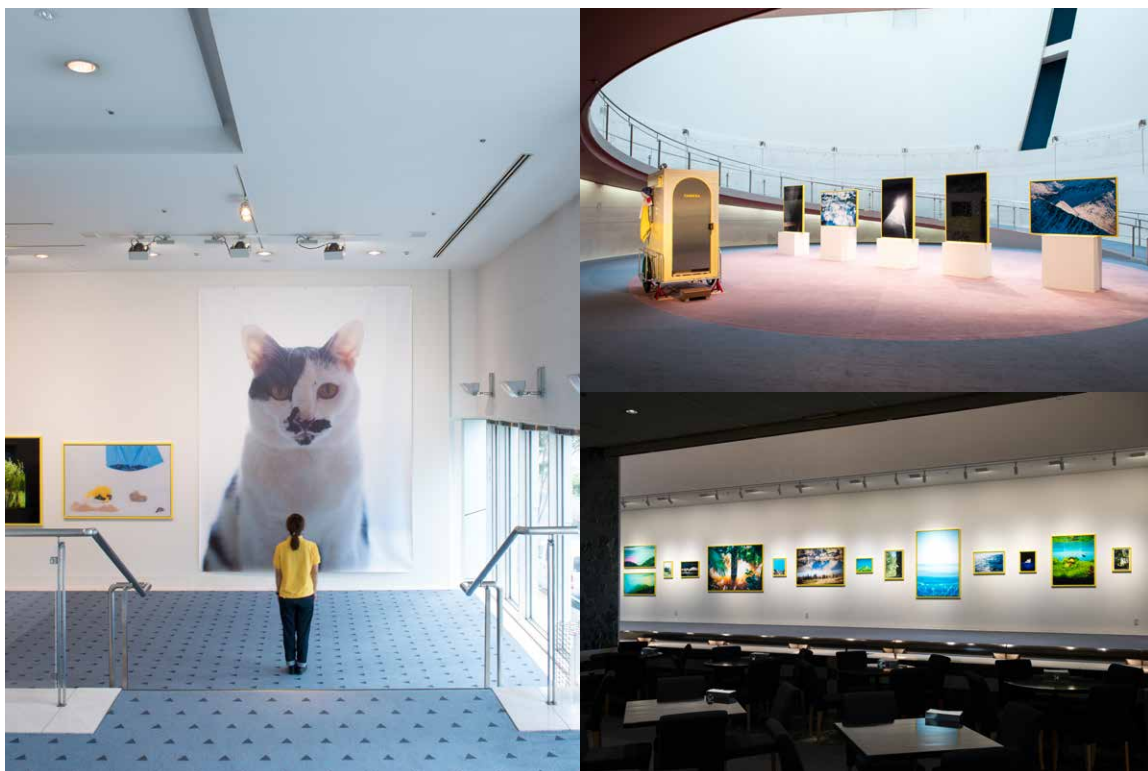
文化服装学院、NANZUKAUNDERGROUND

株式会社タグポート、株式会社七彩、合同会社テクネー

協賛：旭酒造株式会社

企画協力：スパイラル

会場協力：株式会社ワコールアートセンター



池田晶紀展 SUN

多方面で活躍する気鋭の写真家・池田晶紀の個展をスパイラルガーデンで開催しました。

本展では、「自然」をテーマとして撮影された新作を含む約40点の作品のほか、本展のために制作した、カメラがモチーフの立体作品、人力移動式サウナ「CAMERA」も展示。世界初となる人力移動式サウナ「CAMERA」の中には実際に入ることもでき、多くの来場者が体験しました。

Masanori Ikeda Exhibition SUN

This was a solo exhibition showcasing the work of the photographer Masanori Ikeda, who has carved out an exciting career in many fields. In addition to around 40 new examples of Ikeda's work exploring the theme of nature, there was a sculpture especially made for the exhibition. CAMERA was inspired by the titular motif, which originally means a small room, while ostensibly functioning as a mobile sauna that is hand-pulled like a rickshaw. The first of its kind, it was possible for visitors to go inside the sculpture and many took advantage of this to experience the unique artwork.

会期：2017年8月29日(火)～9月10日(日)

会場：スパイラルガーデン

主催：株式会社ゆかい

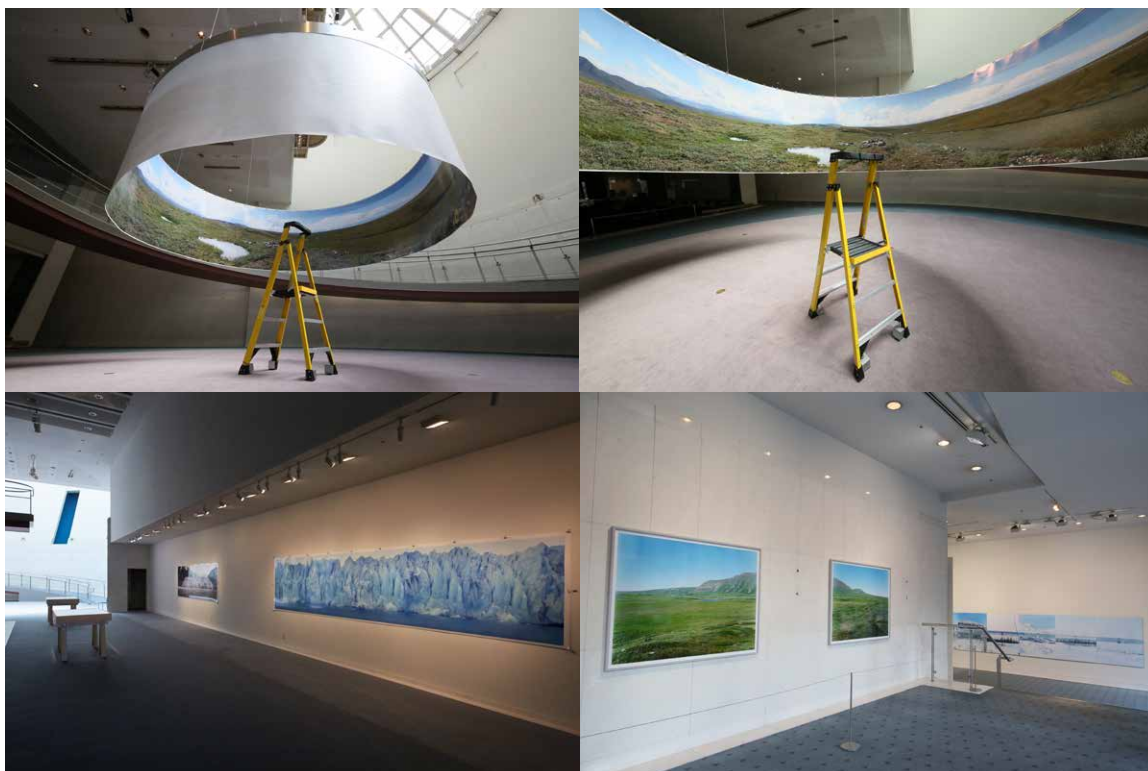
アートディレクション：菊地敦己

企画協力：スパイラル

会場協力：株式会社ワコールアートセンター

協力：フィンランドサウナクラブ

Photo: ©Masanori Ikeda (YUKAI)



石塚元太良展 panorama

展覧会タイトルであるpanoramaは、写真が発明される以前の19世紀ヨーロッパで流行した、精緻な風景画を展示し人々に仮想現実を楽しませた「パノラマ館」から着想を得ています。

コンディショニングウェアブランド「CW-X」からコラボレーションウェアが発売された事を記念し開催された本展では、中に入ることによって360度に広がるアラスカの風景を体感することができる約15mの写真を用いたインスタレーション作品のほか、アラスカの氷河を撮影した全長約6mの未発表の作品「Shoup Glacier」「Surprise Glacier」、エスプラナードでは代表作の一つ「PIPELINE」のシリーズも展示しました。

Gentaro Ishizuka Exhibition panorama

In the early 19th century prior to the invention of photography, panoramic paintings emerged as a popular form of entertainment in Europe. Splendid seaside and mountain motifs were precisely depicted in these landscape paintings, inviting people into other realms for a fleeting moment. Undeveloped areas such as the Alaskan Arctic Circle and huge glacial walls floating in the sea can now be embodied in "fictional" panoramic photographs using minute digital images. Can we lose ourselves in the pure imagination of people who never knew photography in these spaces?

— Gentaro Ishizuka

会期：2017年4月11日(火)～6日(日)

会場：スパイラルガーデン

主催：株式会社ワコールアートセンター

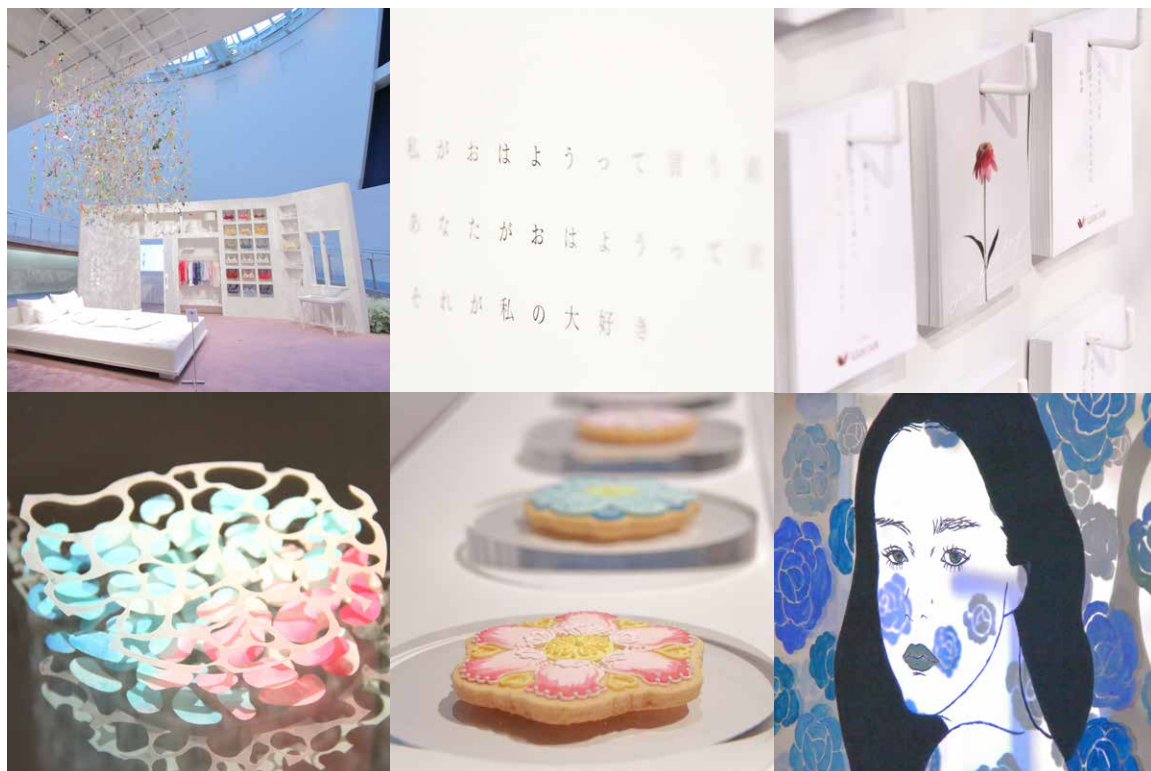
企画制作：スパイラル

プリント協力：キャノンマーケティングジャパン株式会社

協賛：株式会社カラーサイエンスラボ

Supported by CW-X

Photo: Gentaro Ishizuka



one fine day ～素敵な下着からはじまる私の一日～

女性の『美しくなりたい』という想いに下着を通して真摯に向き合うワコールの展覧会をスパイラルがプロデュース。「one fine day ～素敵な下着からはじまる私の一日～」と題し、彩りある一日をスタートさせる女性のときめく気持ちを、さまざまなジャンルで活躍する、5人の女性クリエイターが表現しました。

参加作家

KUNIKA (スイーツアーティスト)

篠崎恵美 (フラワーアーティスト)

多田明日香 (アーティスト)

maegamimami (イラストレーター)

Loveli (モデル・アーティスト) (*五十音順)

one fine day: My Day Begins With My lingerie

Spiral produced this exhibition by Wacoal, taking a serious and sincere look at lingerie based on the idea of enhancing female beauty.

Titled "one fine day: My Day Begins With My lingerie," five female designers and artists working in various different media and fields expressed the excited emotions of women beginning a vibrant single day.

会期：2017年11月7日(火)～12日(日)

会場：スパイラルガーデン

主催：株式会社ワコール

企画協力・制作：スパイラル／株式会社ワコールアートセンター



窓学10周年記念

窓学展 - 窓から見える世界 -

窓学国際会議 - 窓は文明であり、文化である -

「窓は文明であり、文化である」の思想のもと、YKK APが2007年から窓を学問として多角的に探究する研究活動「窓学」の10周年を記念した展覧会とシンポジウムを開催しました。窓学展では、東京大学をはじめとする大学および研究機関より計7組の研究者・建築家が参加し、研究展示を行なったほか、レアンドロ・エルリッヒ、ホンマタカシ、鎌田友介、3名のアーティストによる窓をテーマとした新作、イタリアを代表するデザイナー ミケーレ・デ・ルッキによる作品を展示しました。窓学国際会議では、世界的な建築写真家であるイワン・バーン、プリツカー賞受賞の槇文彦、歴史家・建築家として精力的に活躍する藤森照信、スイスから来日した建築家・建築史家のヴィットリオ・マニャーゴ・ランプニャーニや、特別展示にも参加のミケーレ・デ・ルッキをはじめ、これまで窓学に参加した多彩な分野の専門家に、海外からもユニークなゲストを加え、約30名の招待講演者による国際的かつ学際的な窓の研究発表および講演が実現しました。

Windowology 10th Anniversary Exhibition Windowology 10th Anniversary Symposium

YKK AP Inc. marked the 10th anniversary of its Windowology activities by holding an exhibition titled Windowology 10th Anniversary Exhibition and a symposium titled Windowology 10th Anniversary Symposium. The company has been examining windows from a wide variety of viewpoints, such as architecture, history, culture, art, and design, through their "Windowology" activities, which they initiated in 2007 with the aim of exploring the window from many angles as an academic subject based on the belief that "windows represent civilization and culture". To mark the 10th anniversary of Windowology, they held an exhibition and symposium to look back on the history of their Windowology activities and to share the fruits of their research.

展覧会

会期：2017年9月28日(木)～10月9日(月・祝)
会場：スパイラルガーデン

シンポジウム

日時：2017年10月3日(火)
会場：スパイラルホール

主催：YKK AP株式会社

Photo: ©Sohei Oya/Nacása & Partners Inc.



NSK VISION 2026 Project SENSE OF MOTION – Future Forum 2

あたらしい動きと、あたらしい現実。

2016年にスパイラルで開催された、日本精工株式会社(NSK) 創立100周年を記念した展覧会「SENSE OF MOTION」の継続プログラム。「SENSE OF MOTION - Future Forum」は、あらたな発想で未来の社会を革新していく人々を応援し、育み、ネットワークしていくプラットフォームです。さまざまな分野であらたな領域を開拓する人々との対話を通じて、本質的な豊かさを実現する未来世界への扉を開く場となることを目指しています。

「Future Forum 2」は多彩なゲストを迎えスパイラルホールにて開催。テクノロジーと人と社会のあらたな関係を見据え、私たちが直面するあたらしい現実について議論されました。

総合司会 中谷日出

第一部：基調講演

池上高志(東京大学教授)

第二部：座談会「LIFE」科学技術とクリエイションのあり方について討論

落合陽一(メディアアーティスト)、田川欣哉(Takram代表)、

福原志保(アーティスト)

第三部：座談会「MAKE」日々開発されるモノが生産者からユーザーの手に渡るまでのプロセスについて話し合う

柴田文江(プロダクトデザイナー)

玉城絵美(Ph.D., H2L株式会社創業者/早稲田大学准教授/JSTさきがけ 研究員)

遠藤謙(株式会社Xiborg 代表取締役)

NSK Vision 2026 Project SENSE OF MOTION Future Forum 2

This was a follow-up to the exhibition “SENSE OF MOTION,” which was held at Spiral in 2016 to commemorate the 100th anniversary of NSK Ltd.

“SENSE OF MOTION -Future Forum” is a platform for supporting, cultivating, and building a network of people who will innovate society in the future with their new ideas. Through dialogue between figures pioneering new ground in a range of fields, it aspires to be a place that leads the way to a future world realizing its intrinsic richness.

“Future Forum 2” was held at Spiral Hall with an exciting lineup of guest speakers. The discussion explored new relationships between technology, people, and society as well as the fresh developments in implementation that we now face.

日時：2017 年 11 月 12 日(日)

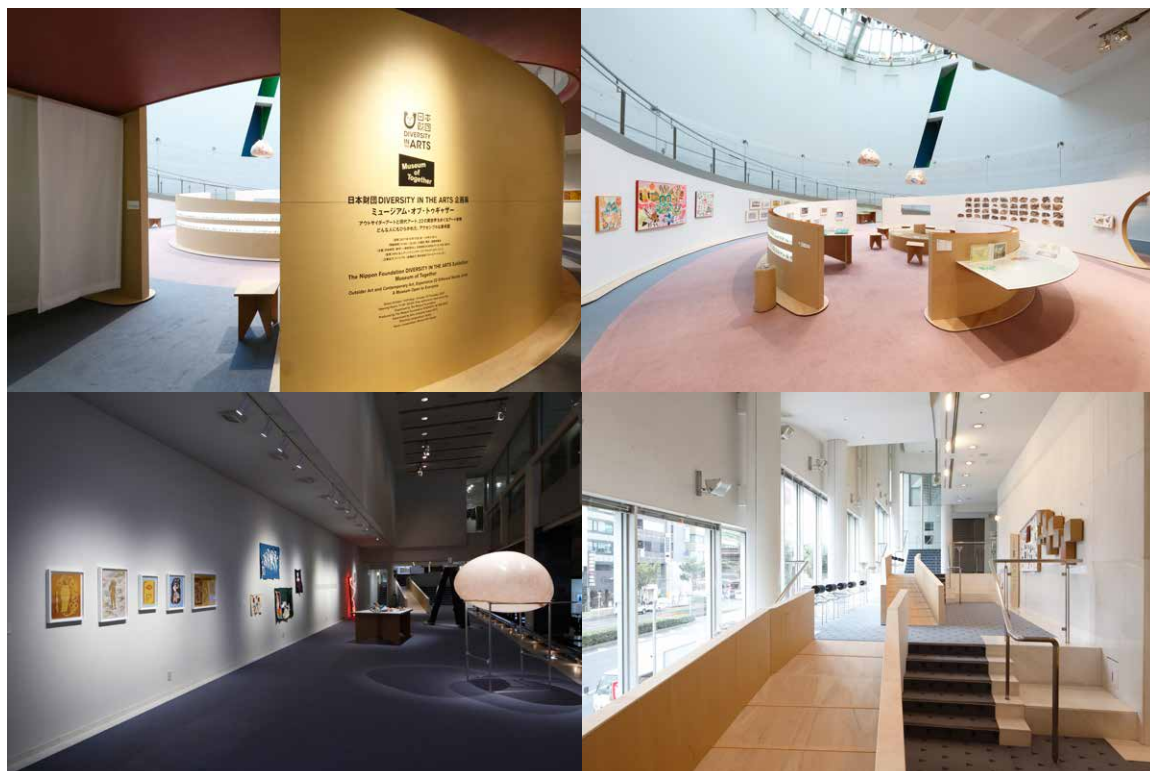
会場：スパイラルホール

主催：日本精工株式会社

プロデューサー：紫牟田伸子

企画制作：スパイラル/株式会社ワコールアートセンター

Photo: Katsuhiko Ichikawa ©Spiral/Wacoal Art Center



日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー

障害者のアート活動を中心に据えて、多様性の意義と価値を広く伝え、越境や交錯、交歓の喚起を導くプロジェクト「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダン・ダイバーシティ・イン・ジ・アーツ)」は初の企画展をスパイラルガーデンにて開催しました。アウトサイダーアートと現代アート、22の作家による作品と、資料や模型などのアーカイブから構成された本展では、多くの鑑賞者に開かれた展覧会を目指して、どなたでも楽しく、居心地良く過ごすことができるよう、スタッフが常駐する受付「ウェルカム・ポイント」や、照明を落とした静かに過ごせる部屋「クワイエット・ルーム」、音声を通して作品を知ることのできる「オーディオ・ディスクリプション」を用意、車椅子やベビーカーでアクセスできるように階段にスロープも設置するなど、アトリエ・ワンの設計・デザインによりスパイラルの既存の空間を使いつつ、バリアフリーな構成を実現させました。

The Nippon Foundation DIVERSITY IN THE ARTS Exhibition-Museum of Together

The Nippon Foundation aims for an inclusive society in which everyone can participate. The Nippon Foundation DIVERSITY IN THE ARTS project, which focuses on artistic activities by persons with disabilities, seeks to transcend borders and facilitate interaction, to promote a wider awareness and recognition of the value of diversity. The Nippon Foundation DIVERSITY IN THE ARTS Exhibition – Museum of Together is the project's first exhibition. We have assembled an organizing team that comprises a diverse range of viewpoints, specialist expertise, and approaches, and these various perspectives are being incorporated as preparations move forward. We hope that this exhibition will provide an enjoyable opportunity for visitors to meet new people, and to develop new interests and perceptions.

会期：2017年10月13日(金)～31日(火)

会場：スパイラルガーデン

主催：日本財団

制作：一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

監修：NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

企画協力：スパイラル

会場協力：株式会社ワコールアートセンター

Photo: ©木奥恵三

commissioned by the Nippon Foundation DIVERSITY IN THE ARTS



ヨコハマ・パトリエンナーレ2017

“障害のある人”と“多様な分野のプロフェッショナル”が協働する現代アートの国際展として、2014年に始まった「ヨコハマ・パトリエンナーレ」。2回目となる今回は「sense of onenessとけあところ」をテーマに、3部構成で展開されました。第1部「創作」では、アーティストの井上唯が、多様な市民1万人とワークショップを実施、密林東京とともに巨大インスタレーション作品を制作し、10月7日(土)～9日(月・祝)の第2部「発表」で披露。同期間には、サーカスアーティストの金井ケイスケやダンス劇作家の熊谷拓明を演出に迎えたパフォーマンスステージ『不思議の森の大夜会』を開催、各々の個性や特長を生かし合い、「壁」や「境界線」を溶かしていく瞬間を表現しました。第3部「記録展示」では、横浜市内各所で作品の一部や記録映像などを展示しました。

Yokohama Paratriennale 2017

Launched in 2014, Yokohama Paratriennale is an international contemporary art event that brings together various professionals and people with so-called disabilities. The second edition of the festival was themed around “sense of oneness” and divided into three sections. The first, “creation” stage was held until September 30th. The artist Yui Inoue organized workshops with 10,000 local residents from a range of backgrounds and created a large-scale installation with Mitsurin TOKYO, which was then unveiled at the second, “exhibition” stage from October 7th until October 9th.

During the same period, the circus artist Keisuke Kanai and dance playwright Hiroaki Kumagai directed the performance “Evening Party in Wonder Forest,”

主催：横浜ランデヴープロジェクト実行委員会、
特定非営利活動法人スローレーベル

共催：横浜市

補助：平成29年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

助成：国際交流基金アジアセンター アジア・文化創造協働助成、よこはま夢ファンド
(横浜市民活動推進基金)、SOMPOちきゅう倶楽部 2016年度「Heart & Arts

プログラム」、リコー社会貢献クラブ・FreeWill、National Arts Council Singapore
協賛：株式会社 JVC ケンウッド、株式会社 FREEing

協力：神奈川県遊技場協同組合・神奈川県福祉事業協会、旭化成株式会社、NEC、
神奈川県住宅供給公社、株式会社伊藤園、株式会社協力進印刷、株式会社ケー
ムシーコーポレーション、株式会社産業貿易センター、新豊洲Brilliaランニン
グスタジアム運営委員会、独立行政法人 国際協力機構 横浜国際センター、横浜高速
鉄道株式会社、横浜市吉野町市民プラザ

認証：beyond2020 プログラム

Photo: Hajime Kato



スマートイルミネーション横浜 2017

スマートイルミネーション横浜は、長年にわたって優れた都市景観の形成に取り組んできた横浜都心臨海部を舞台に、新たな夜景の創造を試みる国際アートイベントです。2011年、東日本大震災を契機として、都市空間における省エネルギー技術活用の重要性が高まるなか、本イベントはスタートしました。スパイラルは、第1回からアートディレクションを担当しています。アーティストの創造性を活用しながら、環境にやさしい、未来の夜景のあり方を考えることが、本イベントのコンセプトです。7年目となる2017年度は、「beyond2020 プログラム」の認証、トヨタグループによる協賛等を受け、大幅に規模を拡大して開催。11月1日～5日のコアフェスティバルでは、象の鼻パークおよび関内地区において国内外のアーティストが新たな横浜夜景を提案するアートプログラム、学生・若手アーティストなどが参加するスマートイルミネーション・アワードを展開したほか、12月31日までの期間をヨコハマ・イルミネーション・マンスと位置づけ、横浜市内

各所から「創造的横浜夜景」を発信しました。さらに緑区、泉区では、それぞれの区の特徴を生かした郊外版のスマートイルミネーションを開催しています。

Smart Illumination Yokohama 2017

"Smart Illumination Yokohama", is the first ever project to create a night view by fusing eco-friendly technology and art. This event, celebrating its seventh anniversary, will see artists from around the world gathering in Yokohama, their works displayed not only at Zou-no-hana Park but also across downtown Yokohama. During this special period, citizens, artists, historical buildings, towns, and local businesses will take the stage, joining forces to boldly reinvent Yokohama's creative night view on the stage of Yokohama city and its vibrant urban landscape.



スマートイルミネーションみどり

—なかやま幻影ウェディング—

会期：2017年9月29日(金)～30日(土)

会場：緑新栄会通り(JR横浜線「中山駅」そば)

主催：横浜市緑区

参加作家：イーガル、上ノ空はなび(to R mansion)、
日下淳一、KOSUGE1-16、高橋匡太(協力)、
株式会社中川ケミカル、みま、森田智博、吉田望
(*五十音順)



スマートイルミネーションいずみ

—光の森—

会期：2017年12月2日(土)

会場：地蔵原の水辺(相鉄線「いずみ中央駅」前)

主催：横浜市泉区

参加作家：Kino Iglu、
食とものづくりスタジオ FERMENT、
高橋匡太、LeadLite Inc.(協力)
(*五十音順)

スマートイルミネーション横浜2017

コアフェスティバル

会期：2017年11月1日(水)～5日(日)

会場：象の鼻パーク、横浜都心臨海部

参加作家：市川平、Kateryna Snizhko、川辺ナホ、北村康恵、木村崇人、日下淳一、スイッチ総研、曾谷朝絵、高橋匡太、竹澤葵(FREEing)、Daniel Hellmann、千田泰広、徳永宗タ、Jaime Ibanez&Jornt Duyx、原倫太郎、平澤賢治、Martina Stock、森貴之、Lilian Bourgeat(*五十音順)

ヨコハマ・イルミネーション・マンス

会期：2017年11月1日(水)～12月31日(日)

会場：横浜市内全域

主催：スマートイルミネーション横浜実行委員会

共催：横浜市

トップパートナー：神奈川トヨタ自動車株式会社、横浜トヨペット株式会社、トヨタカローラ横浜株式会社、
トヨタカローラ神奈川株式会社、ネットトヨタ横浜株式会社、ネットトヨタ神奈川株式会社、ネットトヨタ湘南株式会社、
トヨタ自動車株式会社

オフィシャルパートナー：株式会社FREEing

特別協賛：新日鉄興和不動産株式会社、富士ゼロックスアドバンステクノロジー株式会社

協賛：エリーパワー株式会社、株式会社中川ケミカル、横浜風船株式会社、ランドポート株式会社

ヨコハマ・イルミネーション・マンス協賛：アニヴェルセル株式会社、三井アウトレットパーク横浜ベイサイド

補助：平成29年度 文化庁文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

助成：オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム、ゲーテ・インスティトゥート(東京ドイツ文化センター)、
スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、ハンブルク市文化メディア省

後援：スイス大使館



ジョイン・ザ・ドッツ

スパイラルは、2017年4月にグランドオープンした太田市美術館・図書館の管理運営について総合ディレクションを担当しています。2018年1月には、オーストラリアのシドニーオペラハウスとの共同プロジェクトとして、太田とシドニーを結ぶアートワークショップ「ジョイン・ザ・ドッツ」を開催しました。日本初公開となる本プロジェクトでは、太田からシドニーに、シドニーから太田に、お互いにアーティストを派遣、それぞれの会場に設置された大きな壁に、2人のアーティストと現地の子どもたちと一緒に絵を描くとともに、インターネットで両会場を結び、リアルタイムで交流を行ないました。市内小学校への協力と呼び掛け、希望によって選ばれた6校の児童のほか、一般公募で参加した計900名にも及ぶ多くの子どもたちが体験しました。アートにふれながら、世界と交流する。子どもたちの豊かな感性を育む、新しいワークショッププログラムとなりました。

JOIN THE DOTS

Co-organized with Sydney Opera House, this art workshop was held at the Art Museum & Library, Ota as the first such joint initiative by the Gunma Prefecture city and Sydney, Australia. Approximately 650 local elementary school students and around 250 other children participated in the workshop. Spiral served as project partner in the planning.

会期：2018年1月16日(火)～21日(日)
 会場：太田市美術館・図書館 3階視聴覚ホール
 主催：太田市、一般財団法人太田市文化スポーツ振興財団、シドニーオペラハウス
 協賛：株式会社SUBARU
 助成：豪日交流基金（オーストラリア政府外務貿易省）、国際交流基金
 後援：太田市教育委員会、オーストラリア大使館
 協力：学校法人太田国際学園 ぐんま国際アカデミー（GKA）、シドニーフェスティバル
 企画協力：アーツピープル、スパイラル／株式会社ワコールアートセンター、一般社団法人ハイウッド

Photo : 1,2. Miwa Uehara 3. SPIRAL(ART MUSEUM & LIBRARY, OTA)
 4. Anna Kucera(SYDNEY OPERA HOUSE)



IMABARI Color Show

タオルの産地として海外でも知名度の高い愛媛県今治市。名水晒として知られる蒼社川の良質な水に恵まれているこの地には、優れた染色技術が集積しています。愛媛県繊維染色工業組合による今治の染色技術を紹介する本展覧会「IMABARI Color Show」では、1995年に来日してから東京の色に魅了された建築家のエマニュエル・ムホーが、これまで誰も経験したことのない1000色の世界を作品化し、染色に必要な調合割合、温度湿度、時間の概念を「色のレシピ」として視覚的に表現したインスタレーションとして展開しました。一般社団法人日本流行色協会(JAFCA)とのコラボレーションにより生まれた「今治の色」と、繊維工業の研究を続ける城西大学辻智佐子教授監修による染色技術の特別展示、染色工場を撮影した映像の展示のほか、スパイラルカフェのテーブルクロスも今治で染色したカラーに染まりました。

2018年2月には今治市にて巡回展を開催しました。

IMABARI Color Show

Introducing dyeing techniques from the internationally famous towel-producing region of Imabari, Ehime, this exhibition was held in December 2017 at Spiral Garden and then toured to Habari, an event venue in Imabari City, in February 2018. In total, the exhibition attracted approximately 12,000 visitors. The architect and designer Emmanuelle Moureaux visually expressed the concept of dyeing as a "color recipe" through an installation of 1,000 colors. In addition, there were related events such as a tour of a dyeing factory in Imabari as well as a workshop for participants to try dyeing. Spiral was involved in planning the exhibition.

会期：2017年12月7日(木)～10日(日)

会場：スパイラルガーデン

主催：愛媛県繊維染色工業組合

協賛：木村商事株式会社、村上産業株式会社、
有限会社富士商店、株式会社 ヤスハラ

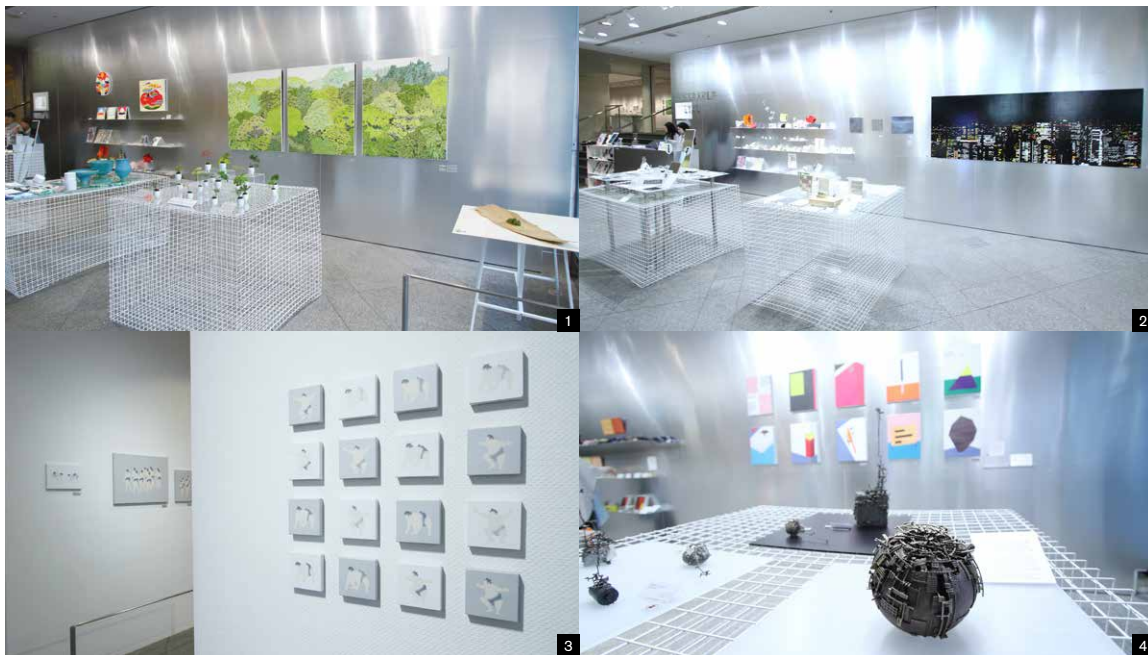
後援：経済産業省 四国経済産業局、愛媛県、今治市
メインインスタレーション：エマニュエル・ムホー

「今治の色」ディレクション：一般社団法人日本流行色協会(JAFCA)

監修：辻 智佐子(城西大学経営学部教授)

会場設計・制作：株式会社 NINO/NINO INC.

企画：スパイラル/株式会社ワコールアートセンター



MINA-TO Art Wall

MINA-TOでは、スパイラルによるディレクションのもと定期的に企画展を開催し、旬の若手アーティストの作品を展示販売しています。

MINA-TO regularly holds exhibitions, which are curated by Spiral, and introduces emerging artists.

1 WONDERS vol.2 Greenscape

驚きに満ちた世界観と日本らしさをあわせもつ作品を紹介するシリーズ企画展「Wonders」の第2弾。様々な「見立て」の手法を通じて生活空間に自然を取り入れてきた日本ならではの技法を現代的に応用し、人と自然との関係性を多彩なアプローチで表現する4作家を紹介しました。

会期：2017年6月5日(月)～6月18日(日) 出展作家：康 夏奈、田中圭介、田中加織、東京盆栽生活空間

The series exhibition: WONDERS proposes to discover one particular aspect of Japan. Its second edition "WONDERS Greenscape" introduced with a variety of approaches the relationship between "People" and "Nature".

Exhibitors: Kana Kou, Keisuke Tanaka, Kaori Tanaka, TOKYO BONSAI LIFESTYLE

2 MINA-TO SUMMER FESTIVAL: FUTURE STAR

次世代のスターとも言えるべき、これからの活躍が期待されるアーティストの作品や自分にとってのスター(=宝物)になるような逸品を前期後期の2会期に分けて紹介しました。

会期：2017年7月3日(月)～8月3日(木) 出展作家：深堀隆介、炭田紗季、古武家賢太郎、MONOPURI、matsurica(古川莉恵)、paper tunes(杉山三)、風景と食設計 HOO、柳田有希子、大村雪乃、OCHIAI DESIGN PROJECT / 落合製作所

Celebrated the second anniversary of MINA-TO, this exhibition introduced the artists who are expected to become stars (= treasure) in the future.

Exhibitors: Ryusuke Fukahori, Saki Sumida, Kentaro Kobuke, MONOPURI, Matsurica (Rie Furukawa), paper tunes, Landscape and food design room HOO, Yukiko Yanagida, Yukino Ohmura, OCHIAI DESIGN PROJECT

3 WONDERS vol.3 In & Out

シリーズ企画展「Wonders」の第3弾。本展では、日本社会に根づく「本音と建前」や、社会集団の内側と外側、人の内面と外界の関係性などの「In」と「Out」の感覚を表現する3名の現代美術家を紹介しました。

会期：2017年9月4日(月)～9月24日(日) 出展作家：奥田文子、国本泰英、イザベル・ボワノ

The third edition of "WONDERS", "WONDERS In & Out" provided some keys to the mysteries of Japanese society and the complexity of balancing the traditional group system with individuality inspired by modern consumerism.

Exhibitors: Ayako Okuda, Yasuhide Kunimoto, Isabelle Boinot

4 utopia & chaos

本展では、一見美しくイマジネーションに溢れた理想的な世界とそこに共存するカオスの存在に気付かされる作品を紹介しました。

会期：2018年2月26日(月)～3月13日(火) 出展作家：久野彩子、クスマエリカ、南條俊輔フランソワ、榎原澄人

In this exhibition, the works are filled with beauty and imagination though you can notice the existence of chaos hidden behind them.

Exhibitors: Ayako Kuno, Erika Kusumi, Shunsuke François Nanjo, Sumito Sakakibara

MINA-TO オリジナルプロダクト



AOYAMA CULTURE MAP

表参道、青山エリアにある有名建築やスパイラルのスタッフおすすめのカフェやレストランなどを紹介する「AOYAMA CULTURE MAP」作成しました。

MINA-TOにて無料配布中

MINA-TO published AOYAMA CULTURE MAP: the guide of shop, restaurant and modern architectures around Spiral.
Free distribution at MINA-TO



MINA-TO × SPOLOGUM Original Diary 2018

テキスタイルやファッション、アートワークなど幅広い表現活動をするSPOLOGUM(スポログム)とコラボレーションをしたオリジナルダイアリーを発売しました。

価格：2,300円(税別)

MINA-TO original diary was collaborated with SPOLOGUM who works wide range of creative fields such as textile, fashion and art.



MINA-TO × SAWAKO URA Tote bag / Pouch

フィンランドを拠点に活動するテキスタイルデザイナー浦佐和子によるファブリックを制作し、トートバックとポーチを発売しました。

トートバッグ価格：4,500 円(税別)

ポーチ (L) 価格：4,000 円(税別)

ポーチ (S) 価格：3,500 円(税別)

Finland based Japanese textile designer Sawako Ura drew new works for MINA-TO and made fabric used them.

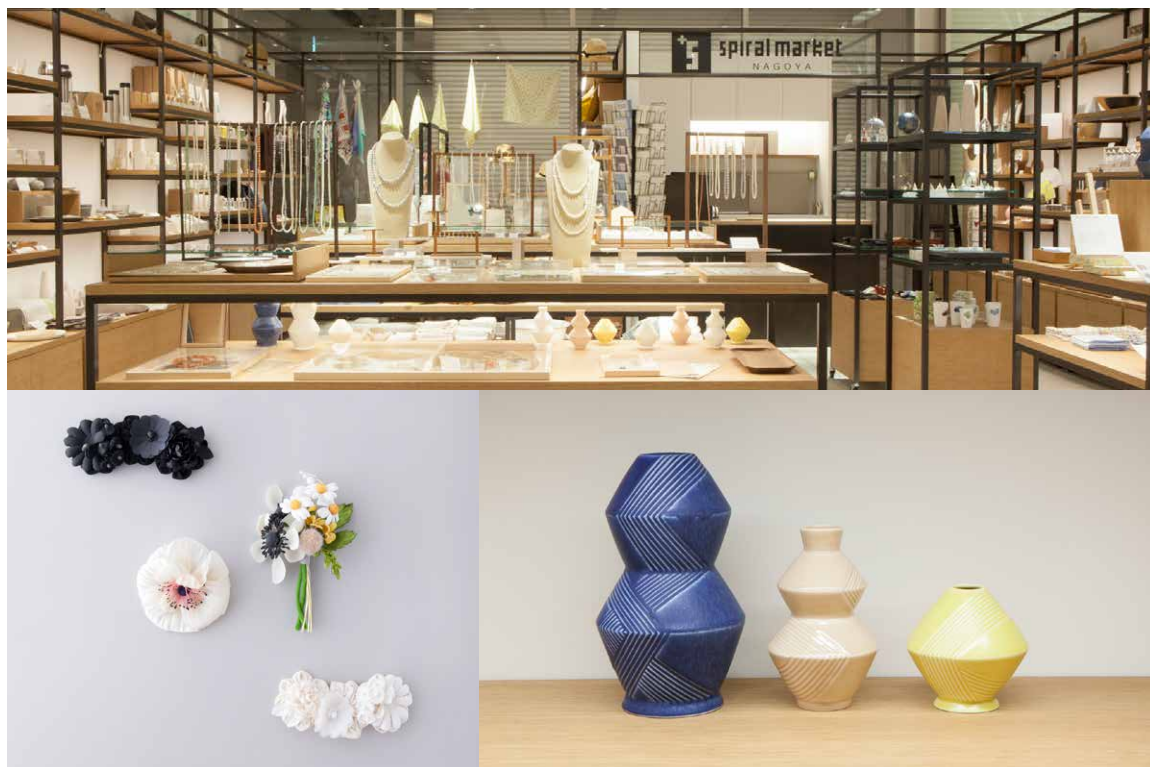


SPIRAL ARCHITECTURE POSTCARD SET

スパイラルの建築写真がポストカードになりました。

価格：1,800円(税別)

The photos of Spiral's architecture, designed by an architect Fumihiko Maki, become postcards.



「+S」Spiral Market NAGOYA オープン

東京以外では初出店となる「+S」Spiral Market が、名古屋駅のタカシマヤゲートタワーモールにオープンしました。

エターナルデザインをコンセプトに、生活の中で長く愛用できるアイテムを国内外から厳選してご紹介するほか、メインの展示スペース「Creators Gate」ではクリエイターやアーティストの作品や活動を期間限定で紹介しています。

+S Spiral Market Nagoya Opens

The first branch of +S Spiral Market outside Tokyo opened in the Takashimaya Gate Tower Mall at Nagoya Station.

Inspired by the idea of "eternal design," the store presents carefully selected items from Japan and overseas that are intended for long-term use in daily life. The main exhibition space, Creators Gate, hosts events that introduce the work and activities of artists and designers.

オープン日：2017年4月17日（月）

住所：〒450-6602 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3
タカシマヤゲートタワーモール2F

営業時間：10:00～21:00

Photo: Kimiko Kaburaki

SPIRAL RECORDS

クラシック、ジャズ、ワールドなど、多様な音楽のエLEMENTを融合させた、スタティックで先鋭的な世界を提示する、音楽レーベル〈SPIRAL RECORDS〉は、よりジャンルレスにその活動に共鳴する作品を紹介していくシリーズ〈Hope in the Past〉を2017年より新たにスタート、第一弾として「suite onírica」(スイチ・オニリカ)をリリースしました。



TIERRA SIN MAL / SILVIA IRIONDO

アルゼンチンのネオ・フォルクローレ・シーンで最も世界性をもつシンガー Silvia Iriondo が、グアラニー族の理念『悪なき大地 (TIERRA SIN MAL)』の遠い響きに、南米音楽の未来の地平を透視する。Juan Falú, Carlos Aguirre, Rafael Martini, Lilian Saba 等、先鋭的アーティストが参加。

発売日：2018年3月9日 レーベル：SPIRAL RECORDS
JAN：4988225100568 形態：CD / 全11曲収録
定価：2,870円(税別)

Spiral Records is very proud to announce the March 9, 2018 release of Tierra sin Mal, the latest album by the universally acclaimed singer Silvia Iriondo, a leading figure in Argentina's neo-folklore movement.

The album deals with the theme of tierra sin mal (land without evil), the guiding principle of the Guaraní people. Internationally renowned as one of Argentina's preeminent folklore singers, Iriondo reinterprets and breathes new life into the deeply rooted traditional culture of Argentina and South America in a work that serves as a beacon for the future of the region's music. Featuring cutting-edge artists such as Juan Falú, Carlos Aguirre, Rafael Martini, and Lilian Saba, Iriondo's songs shed new light on this unique musical realm, conveying the fragrance of the earth.



suite onírica

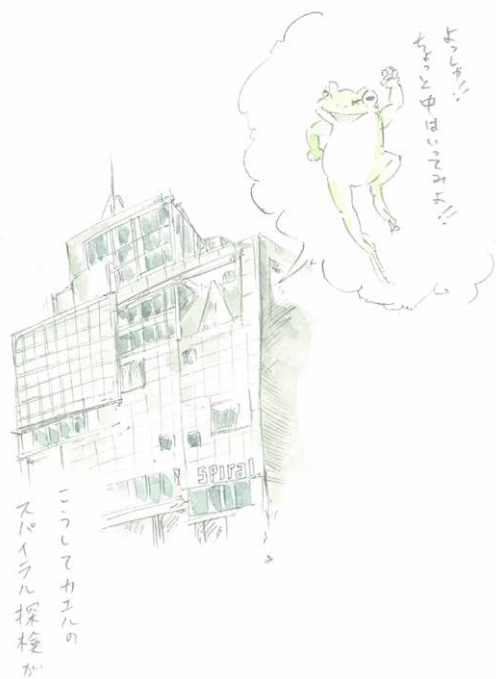
現代ブラジル音楽で最も傑出した才能の一人とされる作・編曲家／ピアニストのハファエル・マルチニによる、ジャズ・シンフォニー作品「suite onírica」(スイチ・オニリカ)の日本盤が〈SPIRAL RECORDS〉よりリリース。「夢幻組曲／夢の組曲」の意味の本作は、全5曲から成るジャズ・セクステット、オーケストラ、クワイアの為の組曲。日本盤のカバーアートはマニエリスムを代表する画家の一人、Giuseppe Arcimboldoの「四大元素〈水〉」を使用。

発売日：2017年8月30日 レーベル：Hope in the Past
JAN：4988225150044 形態：CD / 全5曲収録
定価：2,500円(税別)

One of today's greatest composers/arrangers for Brazilian contemporary music, Rafael Martini, will release the Japanese edition of his jazz symphony suite on August 30th from "SPIRAL RECORDS." The album titled "suite onírica," or "fantasy suite," is comprised of 5 pieces and features jazz sextet, orchestra and choir. The artwork "The Four Elements: Water" by the great Mannerist Giuseppe Arcimboldo makes the album cover.

ゆるふわカエルのスパイラル探検

SICF16にてオーディエンス賞を受賞したイラストレーター、
関川こうじがスパイラルのメールマガジン用に描き下ろした作品。
スパイラル5Fの屋上庭園に棲むカエルがスパイラル館内を紹介する。



spiral.[®]